

# 日蓮大聖人御書全集

えほうふえにん こと

依法不依人の事

新版  
2146  
S  
2148

えほうふえにん こと

# 依法不依人の事

納

ほけきよう ごじ

おさまらず、法華經の五字□□□□おさまるといふか。

こた

い

こがね

似

いし

まこと

答えて云わく、しかなり。金にたる石あり、また実の

こがね

たま

いし

まこと

たま

ぐしゃ

こがね

金あり。珠にたる石あり、実の珠あり。愚者は金に

いし

こがね

たま

いし

たま

たる石を金とおもい、珠にたる石を珠とおもう。この

びやくあん

ゆえ

こがね

に

いし

まこと

こがね

たま

に

僻案の故に、また金に似たる石と実の金と、珠に似た

いし

まこと

たま

しょうれつ

争

せけん

ひとびと

る石と実の珠と、勝劣をあらそう。世間の人々はいずれ

ぜ

知

ゆえ

たにん

言

方

を是といふことをしらざる故に、あるいは多人のいふかた

付

ひとり

じつぎ

捨

しょうにん

ことば

につきて一人の実義をすて、あるいは上人の言について

しょうにん じつぎ

いとく もの

義

少人の実義をすつ。あるいは威徳の者のいうぎにつきて

むい もの じつぎ

ほとけ

えほうふえにん

ほう

よ

ひと

無威の者の実義をすつ。仏は「依法不依人（法に依って人

よ

誠

たま

まつだい

しよにん

えにん

に依らざれ）」といましめ給えども、末代の諸人は「依人

ふえほう ひと よ

ほう

よ

ほとけ

えりようぎきよう

不依法（人に依って法に依らず）」となりぬ。仏は「依了義経

ふ え ぶりようぎきよう

りようぎきよう

よ

ぶりようぎきよう

よ

不依了義経（了義経に依って不了義経に依らざれ）」と

制

たま

じよくせ

しゅじよう

え ぶりようぎきよう

えりようぎきよう

はせいし給えども、濁世の衆生は「依不了義経不依了義経

ふりようぎきよう

よ

りようぎきよう

よ

もの

（不了義経に依って了義経に依らず）」の者となりぬ。

粗

々 せけん

ほうもん

あん

けごんしゅう

もう

しゅう

あらあら世間の法門を案ずるに、華嚴宗と申す宗は

けごんきよう ほん

いつさいきよう

統

ほつそうしゅう

さんろんしゅうとう

華嚴経を本として一切経をすべたり。法相宗・三論宗等

みな わ えきよう ほん しょきよう しゃく  
も皆、我が依経を本として諸経を釈するなり。されば、

けごんしゆう ひととお ちようかんとう こころ 出 か しゆう

華嚴宗、人多しといえども澄観等の心をいはず。彼の宗

ひとびと しょきよう 読 ちようかん こころ まった

の人々、諸経をよめども、ただ澄観の心をよむなり。全

しょきよう よしゆう ちようかんとう ぶつ

く諸経をばよまず。余宗またかくのごとし。澄観等、仏意

相 叶 かれ ぶつ かいかな ちようかん

にあいかなわば、彼らまた仏意に相叶うべし。澄観もし

ぶつ かいかな か しゆう しょにん ぶつ かいかな

仏意に相叶わずば、彼の宗の諸人また仏意に相叶うべから

ひとりもう 轉 しょにんもう 伝 ひとり 政 ごとと

ず。一人妄をさええずれば、諸人妄をつたう。一人まつり事

穩 ばんみんく

おだやかならざれば、万民苦をなすがごとし。

とうせい ねんぶつしや しょきよう しょぶつ ねん ぎよう 思

当世の念仏者、たとい諸経・諸仏を念じ行ずとおもえ

どうしやく ぜんどう ほうねんとう こころ 過

ども、道綽・善導・法然等の心をすぎず。もししからば、

どうしやくぜんじ ひとり う ものあ しやく ぜんどう

道綽禪師が「いまだ一人の得る者有らず」の釈、善導が

せん なか ひと な しやく ほうねん しやへいかくほう しじ

「千の中に一りも無し」の釈、法然が「捨閉閣抛」の四字

あやま いちだいししようぎよう 空 ねんぶつしや

謬りならば、たとい一代聖教をそらにせる念仏者なりと

あみだ ほんがん 捨 しよぶつ みこころ 背

も、阿弥陀の本願にもすてられ、諸仏の御意にもそむき、

ほけきよう ひと めいじゆう あびごく い もの

法華経の「その人は命終して、阿鼻獄に入らん」の者とな

うたが えほうふえにん ほとけ

らんこと疑いなし。これひとえに、「依法不依人」の仏の

せいikai 背 ひと 依 とが

誓戒をそむいて、人によりぬる失のいたすところなり。

と い ひと よ とが 汝

問うて云わく、人に依るが失ならば、なんぞなんじは

てんだい みようらく でんぎようだいし よ  
天台・妙楽・伝教大師に依るや。

こた い てんだい みようらく でんぎようだいし もち  
答えて云わく、あえて天台・妙楽・伝教大師を用いず。

てんだい みようらく でんぎようだいし ひ たま しようもん  
ただ天台・妙楽・伝教大師の引き給える証文によるなり。

れい くに 治 ひと くに なか 政 ごと さんこうごていとう  
例せば、国をおさむる人、国の中のまつり事、三皇五帝等の

さんぷんごてん しようぼつ 行 せいじん けんじん  
三墳五典にて賞罰をおこなえば、聖人・賢人とはいわるれ

ひと ぼつ つみ あくどう  
ども人を罰する罪によりて悪道におちず。しかるを、重罪

もの あい きようざい 行 ほうこう  
の者を愛するによりて軽罪におこない、奉公あるものを悪

しよう げんせ ねいじん 名  
むによりて賞せずなどあれば、現世には佞人のなをとり、

くに 破 みらい 悪 な 流  
国やぶれ、未来にはあしき名をながすなり。これひとえに、

もんじよ

よ

ひと

ひと

もんじよ

文書に依つて人によらず、人によりて文書によらざるによ

けんぐ

出

きた

りて、賢愚はいで来るなり。

とうせい

そうぞく

おお

にん

ほん

きようもん

ほん

当世の僧俗、多くは人を本として経文を本とせず。ある

ものい

にちれん

ぜんどうおしやう

過

い

者云わく、日蓮は善導和尚にはすぐべからず。あるいは云わ

にちれんみ

く、日蓮見るほどの。